

○落札者決定基準

平成31年2月6日 厚生第2820号
【沿革 令和2年1月31日厚生第3361号改正】
【沿革 令和3年1月26日厚生第3459号改正】
【沿革 令和4年1月21日厚生第4263号改正】
【沿革 令和5年1月24日厚生第4622号改正】
【沿革 令和6年2月13日厚生第5304号改正】

提案書評価にあたっては、提案内容を公平かつ客観的に評価し、最適な事業者を選定するために、技術面及び価格面の二つの観点で評価する。

1 基本的な考え方

落札者の決定にあたっては、道にとって最適な事業者を選定するため、提案内容の評価に入札価格等の評価を加算する総合評価方式を採用し、総得点の最も高い入札者を落札者とする。

(1) 提案内容の評価

提案内容については、2に示す方法により評価し、提案内容に対する点数（以下「技術評価点」という。）を与える。

(2) 入札価格の評価

入札価格については、3に示す計算式に基づき、入札価格に対する点数（以下「価格評価点」という。）を与える。

(3) 総合評価の方法及び落札者の決定方法

(1) 及び (2) で評価した「技術評価点」及び「価格評価点」の合計点が、最も高い者を落札者とする。

(4) 有効数値

「技術評価点」及び「価格評価点」の算出にあたっては、小数点第1位までを有効とし、小数点第2位を四捨五入する。

(5) 総合評価点の最も高い者が2人以上いる場合（同点の場合）の対応

当該入札者にくじを引かせ、落札者を決定する。この場合において、当該入札者のうちくじを引かない者がいるときは、これに代えて当該入札執行事務に関係のない職員にくじを引かせるものとする。

(6) 入札者が1人の場合の対応

入札者が1人の場合についても、本基準に基づき評価を行う。

2 技術面の評価

(1) 評価項目及び配点

ア 健診実施体制	50点	
イ 精度管理	90点	
ウ 安全管理体制	30点	
エ 道内における地域活動の実績	10点	
オ 独自提案等	20点	合計200点

(2) 評価項目ごとの採点の考え方

評価項目ごとの採点は、別紙「技術評価点に係る評価項目一覧」の評価基準及び配点に基づき評価し、採点する。

(3) 技術評価点の計算

技術評価点は、評価項目ごとの採点の合計とする。

(4) 必須項目について

「技術評価点に係る評価項目一覧」で「必須項目」欄に「必須」と記載している項目（以下「必須項目」という。）については、評価項目の中でも道が重要と考える項目であることから、評価点を0点（記述のな

いものも含む)とした必須項目が一以上ある入札者はその時点で失格とし、落札者とししない。

3 価格面の評価

価格評価点は100点とし、各入札者の価格評価点は、入札書に記載した価格に基づいて以下の式で算定する。なお、価格評価点を求める際には、小数点第2位を四捨五入する。

(1) 低入札価格調査基準価格以上予定価格以下で応札した者

$$\text{価格評価点} = 100 \times [1.0 - (\text{入札総価格} \times 1 / \text{予定価格} \times 2)]$$

※1 入札総価格 = (各検査項目ごとの入札単価(税抜) × 各検査項目ごとの予定数量) の合計

※2 予定総価格 = (各検査項目ごとの予定単価(税抜) × 各検査項目ごとの予定数量) の合計

(2) 低入札調査基準単価未満で応札した者のうち、調査の結果、契約の内容に適合した履行がされると認められた者

$$\text{価格評価点} = 100 \times [1.0 - (\text{低入札価格調査基準価格} \times 3 / \text{予定総価格} \times 2)]$$

※3 低入札価格調査基準価格 = (各検査項目ごとの入札単価(税抜)(入札単価が低入札価格調査基準単価未満の場合は低入札価格調査基準単価) × 各検査項目ごとの予定数量) の合計

(3) 低入札価格調査基準価格未満で応札した者のうち、調査の結果、当該入札価格によっては契約の内容に適合した履行がなされないおそれがあると認めたときは、当該入札者を落札者とせず、入札価格が予定価格の制限の範囲内にある者及び調査基準対象者で契約の内容に適合した履行がされると認められた者について技術評価点と価格評価点を算出し、総得点の最も高い入札者を落札者として決定する。

4 全体の点数配分

技術評価点と価格評価点の配分は、2:1とする。入札者の合計点は、技術評価点と価格評価点の単純な和とする。

5 その他

落札決定後、道が落札者に対し技術評価の内容において改善等を求めた場合は、落札者はこれに応じるよう努めなければならない。